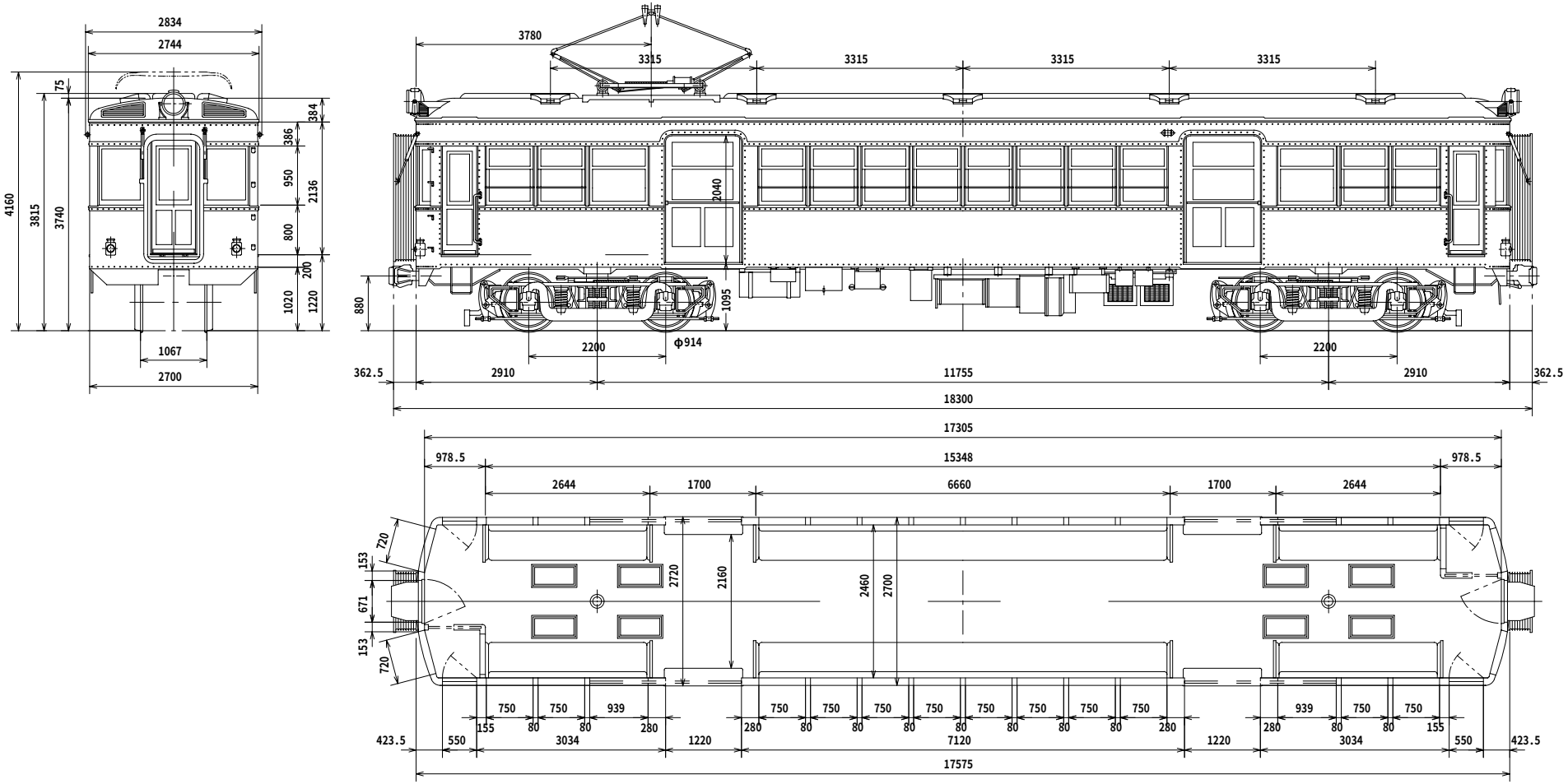
南海電鉄　モハ1201型　形式図

前頁の2001型に次いで製造を始めた、ひとまわり小柄な18m級の車輌
現在でも南海一の輌数をほこり、初期の古いタイプから戦災復興の戦後型にいたるまで、その形態はさまざまである
図は、そのうちで最もスマートと思われる1936年日車製の№1210,12～15,17の当初の姿を示した
ヘッドライト両脇の通風器が第一の特色で、幅の広い戸袋部の窓や、妻板下部のスカートなど、戦前の南海色がうかがえる
パンタ位置が2001と対照的な点にも注目